The Learner

Doshisha International Academy Elementary School

January ISSUE



January, 2024 Volume 141

人生は「人間万事塞翁が馬」

新年明けましておめでとうございます。本年も本校に対する皆様方の一層のご支援、ご鞭撻を何とぞよろしくお願い申し上げます。

さて、年が明けて早々、石川県の能登半島では 地震による甚大な災害が発生し、多くの方々が家 屋や家族を失い、悲しい辛い生活を強いられてお ります。

また、東京の羽田空港では、この震災による救援物資を運搬しようとした海上保安庁の固定翼機が、日本航空の旅客機と衝突して、両機が炎上するという予想だにしない大事故が起きてしまいました。日常生活においては、いつどんな辛いこと、不幸なことが起こるのか、全く予想することができません。

本校の子ども達も学校生活において、楽しいこと、うれしいことを味わうこともあれば、様々な理由で気持ちがめげてしまうこと、辛いことを経験することもあるでしょう。人は気持ちが塞ぎ込むと、その不幸や辛さが永遠に続くのではないかとネガティブ志向に陥ってしまいがちです。

そのような苦境に立たされた時に、人はどう対処すればよいのでしょうか?普段から、どのような心構えを持っていればよいのでしょうか?

そんな時には、「人間万事塞翁が馬」という諺を 思い浮かべて欲しいと思います。この諺の出典は、 中国前漢の時代、淮南王劉安が撰者となって編纂 された『淮南子(えなんじ)人間篇』です。

"人間"は(にんげん)または(じんかん)と読み、「世間」、「世の中」、「人生」という意味です。 "万事"は「あらゆること」、「すべてのこと」。"塞翁"は「塞が城塞、翁が老人」という意味です。 つまり、この故事の主人公である塞翁とは人の名ではなく、国境の城塞付近に住む老人のことです。 "馬"は、この老人が飼っていた馬です。

この故事のあらすじは以下の通りです。

『中国の国境の城塞の近くに、老人が住んでいました。ある時、老人が飼っていた馬が隣の胡という国に逃げてしまい、近所の人々は同情しましたが、老人は「このことが幸福を呼ぶかもしれない」と言いました。そしてその通りに、数ヶ月後、逃げた馬が隣国の駿馬を連れて帰ってきたのです。

近所の人々は祝福しましたが、老人は「このことが禍になるかもしれない」と言いました。その通りに老人の息子がその馬に乗り、落馬して足の骨を折る大怪我をしてしまったのです。

近所の人々は見舞いましたが、老人はまた「このことが幸福を呼ぶかもしれない」と言いました。一年して隣の国が大軍で攻め入ってきました。若者は戦争に駆り出され、10人のうち9人が戦死しましたが、老人の息子は足の怪我のおかげで戦争に駆り出されず、命を落とさずにすみました。』

人生は、良いことも悪いことも予測できません。 人生の各瞬間は一時的で、喜びも悲しみも、成功 も失敗も過程の一つとして捉え、変化を受け入れ、 それを次のステップへとつなげる力を養うこと の大切さをこの諺から学ぶことができます。

「人間万事塞翁が馬」の考え方は、人生における困難や予想外の出来事に対する適応力を高め、 人生の全てをより深く理解し、自己の精神的、哲 学的な成長と発展を促すことが可能になるので はないかと思います。

校長 柳田 昌彦





キリスト教教育



1月:信仰・信頼 January: Faith/Trust

「彼女は手をはずみ車に伸べ 手のひらは紡ぎ棒を操る。 …雪の日も一家に恐れはない 家族は皆、衣を重ねているからだ。」

(聖書協会共同訳 箴言 31 章 19-21 節)

私が毎回、楽しみにしている NHK の E テレに「ソーイング・ビー」という番組があります。これは元々イギリスの BBC 放送で、アマチュアの洋裁愛好家たちが参戦するコンテストの様子を追ったドキュメンタリーなのですが、参加者たちが毎週与えられた課題でオリジナルな洋服を制作し、そのデザイン性や縫製の技術を競う様は、なかなか面白く見応えがあります。

会場には色々な種類の生地や柄の布、装飾に使う付属品などが用意され、参加者にはそれぞれミシンやアイロンやボディなどが貸与されます。参加者は予め提示された制限時間の中で素早く材料を選び取り、自分が構想したデザインの通りに型紙を切り抜き、裁断と縫製と付属品の取りつけ作業、最後のアイロン仕上げまで全て一人でこなさなければなりません。参加者達が取り組むべき課題には、主に3つの種類があります。一つ目はブラウスやスカートなどの基礎的な洋服の制作、二つ目は既に出来上がった洋服をリメイクすること、最後は生きたモデルに合わせた洋服を制作することです。

私が特に面白いと思って見ているのはリメイクの課題なのですが、昨年末に見た回では何時にもまして目を見 張るものがありました。参加者に与えられた既製服はなんとヨレヨレの肌着で、これを何とかしてお洒落な外出 着に仕立て直すというものです。まさかと思いましたが、最初は所在無げにハンガーにかかっていた平凡な肌着 たちが、洋裁家たちの手にかかるとみるみるうちに素敵な外出着に生まれ変わっていきました。その過程はまさ に神業で(番組では一応順位が付けられていましたが)、何れ劣らぬ逸品でした。

ョレョレの肌着は、言ってみればボロの類です。これをたったの1時間半で美しい外出着に仕立て上げた彼らの手腕は、魔法使いさながらと言っても過言ではないでしょう。灰かぶり娘(シンデレラ)を、一晩にしてお城へ出向けるお姫様に変身させるという離れ業も、このような洋裁師たちが付いていれば、あながち不可能ではないと思いました。

上掲の聖書箇所は、旧約聖書「箴言」の書に登場する女性です。「有能な妻」というタイトルのその箇所は、いかにも父権制社会が理想としてきた主婦の姿を謳っていて、これを女性だけに限定してしまうと今の世の中では性差別だと受け取られてしまうかも知れません。しかしながらこれを、性別を超えた一人の人間の生き方と捉えると、そこには家族思いの美しい人物像が浮かび上がってきます。

「彼女は…羊毛と亜麻を求め 手ずから喜んで仕立て上げる。商人の船のように遠くから食物を運んで来る。彼女は夜明け前に起き出して一家の食事を整え 働く若い女たちに指図を与える。よく思い巡らしたうえで畑を購入し 手ずから得たもうけの果実でぶどう畑を設ける。力強く腰に帯をし 腕に力を入れる。取り引きが好調であることを確かめ 灯は夜も消えることがない。彼女は手をはずみ車に伸べ 手のひらは紡ぎ棒を操る。彼女は苦しむ人に手を開き 貧しい人に手を差し伸べる。雪の日も一家に恐れはない 家族は皆、衣を重ねているからだ。」「力と輝きが彼女の衣服。彼女は前途に憂いなくほほ笑む。」(箴言 31 章 13 - 21 節; 25 節)

糸一本から紡ぎ出した布を織って家族の衣服を作り、自ら購入した畑で働いて得た収穫物で、家族の食卓を整える。家族にとって頼もしい存在であるばかりでなく、「苦しむ人に手を開き 貧しい人に手を差し伸べる。」人であり、己自身が身にまとう最上の衣服は「力と輝き」なのです。

Christian Education Committee チャプレン 石川眞弓

<お知らせ>

・1月の「おにぎり献金」は、1月16日(火)です。

※今年度のおにぎり献金は、岩手キリスト教学園認定こども園宮古ひかり、福島県の若松聖愛幼稚園、熊本県の慈恵病院「こうのとりのゆりかご」、日本ユニセフ協会「ウクライナ緊急募金」・「トルコ・シリア大地震」を覚えて、献金を募っています。 賛同していただける方は、お子様に献金をお持たせください。

なお、その後「ガザ人道危機」や今月元日に起こった「能登半島地震」など、覚えるべき被災地は年々増えています。年度ごとに 支援先を更新し、祈りつつ献金を捧げていくことにご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



G3 Christmas Pageant

世界で最初のクリスマスーThe First Christmasー

日英バイリンガルで行われるキリスト降誕劇「クリスマスページェント」を三年生がチャペルで演じました。午前の部は在校生向けに、午後の部は保護者や来客向けに、今年は四年ぶりに観客を入れて公演され、讃美歌伴奏は DIAアンサンブル、幕間合唱はゴスペル SG「Diamond Choir」、幕間奨励では特別講師として広島女学院中学高等学校より刀祢館美也子先生を招いて行われました。

三年生は「役になりきる。」「声を届ける。」「視線を生か す。」という三つの目標を掲げて、見る人に感動を与えるペ



ージェント作ろうと頑張ってきました。初めは恥ずかしそうに、たどたどしく台詞を言っていた児童達も、何度も練習を重ね、次第にマイクを使わなくてもチャペルの端まで届く大きな声で発声できるようになってきました。衣装を着たり、小道具を持ったり、BGM が付いたりして劇が徐々に本格的に



なってくると、より練習に熱が入るようになり、一人ひとりの表情も真剣な面持ちに変わっていきました。中には自分だけでなく、クラス全員の台詞も覚えて、欠席者の代役をいつでも演じる準備ができていた人もいました。まさに、みんなで協力して作り上げた劇と言えます。当日は一人の欠席もなく、57人全員でページェントをやり遂げることができたのはこの上ない喜びです。また、舞台の設定や衣装の縫製、幕の上げ下げなど、裏方として児童をサポートしてくださったページェント SG さんの存在は欠かせな

いもので、大変有難く思いました。心より感謝を申し上げます。

当日見に来てくださったお客様から、「感動した。」「涙があふれ出た。」など嬉しい言葉をいただきました。在校生からは心のこもった励ましの手紙をたくさんもらい、児童達は達成感と充実感を感じることができました。児童の感想からは、「もう一度やりたい。」「本番が一番上手にできた。」「来年ページェントができる二年生がうらやましい。」という言葉が聞かれました。

クリスマスページェントが大成功のうちに幕を閉じたことを大変 喜ばしく思います。













「新しい年、辰年に読みたい本」

明けましておめでとうございます。昨年度はコロナが落ち着 き、様々な学校行事が再び出来るようになりました。今年も、 子ども達そして皆様にとっても素晴らしい年となりますことを お祈りいたします。新年号にあたり、辰年に読みたい本をご紹 介します。12年に一度の辰年を迎えました。どうぞ手に取っ て読んいただければと幸いです。



『エルマーとりゅう』 ルース・スタイルス・ガネット作福 音館書店

『エルマーのぼうけん』の3冊シリ ズの2冊目。ぶじ動物島を脱出した エルマーとりゅうが、「知りたがり病」 という病気をめぐって大活躍。一度読 みはじめたらやめられない抜群のおも しろさです。超ロングセラーの本、子ど も達には是非読んでほしい本です。



『まゆとりゅう』 富安陽子作 降矢 なな絵 福音館

んでほしいのですが、まずは竜のお 話を…。中国には、旧暦2月2日に 春竜節という、竜を迎えて雨を降ら せ五穀豊穣を願うというお祭りが あるそうです。スピード感があって ダイナミックな文章と絵で、臨場感 たっぷりです。こちらも上のエルマ ーと同じく、シリーズをすべて手に 取ってほしいお勧めの本です。



『騎士とドラゴン』 トミー・デ・ パオラ作 岡田 淳訳 ほるぷ出版

ドラゴンとのたたかい方を知ら トラコンとのたたがい方を知らない騎士と、騎士とのたたかい方を知らないドラゴン。そんな ふたりが出会うと……!?まず、たたかうにあたって騎士は、図書館でドラゴンとの戦い方のかいてある本をかたっぱしから読みます。ドラゴンの たっぱしから読みます。ドラゴンの 方はほら穴の奥から古い本を引っ 張り出してきます。 世界中で愛されている絵本作家 トミー・ディオラの、とびきりゆ

かいな絵本です。



『おうさまジャックとドラゴン』 ピーター・ベントリー作 灰島 かり 訳 岩崎書店

家、ヘレン・オクセンバリーが子 も達の姿をのびのびとえがきます。

1 月の主な行事・予定		
1	月	
2	火	6 - 1 1 1 2 1 1 4
3	水	冬季休業
4	木	
5	金	
6	土	
7	日	
8	月	成人の日/Coming of age day
9	火	Unit 5 (Week 5) 始業礼拝(午前授業/PYP プラン)/ Opening Worship Service, PYP Planning (AM lessons)
10	水	委員会/ Students' committees
11	木	
12	金	避難訓練/ Evacuation Drill,(G1・3・5 引渡し訓練)/ the drill of taking children over parents (G1,3,5)
13	土	新 G1 オリエンテーション/ New G1 induction day
14	日	
15	月	Buffer Week G2 校外学習{御田祭}相楽神社 G2 Field Trip(Onda Festival)Saganaka Shrine 通学ミーティン グ(1限)Commuting to school Meeting
16	火	G1 校外学習/G1 Field Trip
17	水	クラブ/ Club Activity
18	木	
19	金	
20	土	
21	日	
22	月	Unit 6 (Week1)
23	火	校祖永眠の日/Memorial Day of our school founder
24	水	創立者永眠記念礼拝 Founder's Eternal Rest Memorial Service
25	木	
26	金	G4 ゲストティーチャー
27	土	
28	日	
29	月	Unit 6 (Week2)
30	火	
31	水	
		2日の主か行車・予定

2月の主な行事・予定

G6エキシビション(**G1**~5 見学) 1 目

2 目 **G6**エキシビション (**G**1~**5** 3時間授業)

